

日刊ケミカルニュース » 企業, 写真・統計表, 業界, 企業・業界 » 医療産業成長戦略セミナー発足 グローバルを視野

医療産業成長戦略セミナー発足 グローバルを視野

イノベーション・フォー・ヘルスケア（東京都新宿区）、医療産業成長戦略セミナーをスタート、イノベーション・フォー・ヘルスケア代表でセミナーの発起人／代表理事藤井百合子氏

2023年4月17日

日本製薬企業の地位が低下、未来志向の情報提供

イノベーション・フォー・ヘルスケア（東京都新宿区）は、今年3月で終了した「政策情報トップセミナー」を刷新し、4月から「医療産業成長戦略セミナー」をスタートした。



医療産業成長戦略セミナー 会見 右：藤井代表

先日の会見において同社代表でセミナーの発起人／代表理事の藤井百合子氏は「日本の医薬・医療産業が抱えている深刻な問題をより積極的に解決するために、新たな勉強会を始める。グローバルに活動の場を広げ、成長していくために必要とされる厳選された情報を提供していく」と語った。

世界の医薬品市場における日本のシェアは、薬価引き下げや、創薬力の低迷などにより6.8%（2010年10.8%）に落ち込む。また、画期的な新薬の開発には巨額のコストが掛かるため、一社単独で新薬を生み出すことが難しい状況にある。こうした背景から、日本の医薬品市場は、米国、中国に次ぐ世界第3位でありながら、承認される薬は外資企業の製品が中心となっており、国内製薬企業のプレゼンス低下が危惧されている。こうした状況を打破するためには、医療産業全体が一体となって進化していくことが求められる。



大谷泰夫氏

同セミナーの座長に就任した大谷泰夫氏（神奈川県立保健福祉大学理事長、元厚生労働審議官）は「私は40数年、霞が関で働いてきたが、外から見ると日本の保健医療福祉は機能不全を起こしており、限界も見えている。このセミナーでは様々な立場の方からの問題意識や知見を取り込み、医薬・医療分野にイノベーションを起こしていきたい」との抱負を述べた。



永山治氏

アドバイザー・ボードの議長に就任した永山治氏（中外製薬名誉会長）は「日本には米国のような創薬ベンチャーが育つエコシステムがなく、医薬品産業が空洞化する課題に直面している。セミナーではAI創薬といった新しいテーマに取り組むなど、産業の成長につなげていきたい」と述べた。

シニア・アドバイザーには、武田俊彦氏（ボストン・コンサルティング・グループ シニア・アドバイザー、元厚生労働省医政局長）、木下賢志氏（元内閣審議官）、三浦公嗣氏（慶應義塾大学病院臨床研究推進センター特任教授、元厚生労働省老健局長）が就任。



三浦公嗣氏

三浦氏は「医療産業には、世界のイノベーションをリードする人材が集まっている。普遍的な科学技術の発展に、どうすればこのセミナーが役立つかという視点で尽力していく」と語った。

セミナーでは、即戦力となる先端技術、DX対策、医療データの活用、モダリティの多様化、先進企業の経営戦略、世界トレンド、リーダーシップなどについて幅広く紹介する。厚生労働省をはじめとする各省庁の幹部による最新の政策情報に加え、日本製薬工業協会、日本医師会、アカデミア、研究機関などのトップから、実践的かつ多角的な視点で捉えた未来志向の情報を提供する。また個々の会員ニーズをヒアリングして講演内容に折り込むなど、インタラクティブな学びの場を構築していく。

なお4月5日には第一回セミナーを開催。柴木憲和氏（EIKI CONSULTINGプレジデント、元バイエル薬品会長）が「日本の製薬産業が再び輝きを取り戻すために」をテーマに講演を行った。